第６学年３組国語科学習指導案

１　単元名　番組「プロジェクトＸ　６０３」を作ろう
　　～　教材「言葉の意味を追って」　（東京書籍６年下）～

２　単元観

本単元は，「番組作り」を通して，説明文の「読むこと」の力を付けるために設定した。「広辞苑」作りに情熱的に取り組んだ親子の姿を番組にすることを児童の活動目的にしながらも，教師は文章構成や語句の使い方，文末などの表現を手掛かりに筆者の表現の工夫について吟味させることで，文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえさせていく。

（１）児童観

本学級の児童は，１学期，佐賀新聞「ぼくの夢わたしの夢」の原稿を書くことで，将来について少なからず考える機会をもつことができた。そこには，漠然とではあるが，人の生き方について考えた児童もあったであろう。また，１学期に漢字辞典の学習を行っている。言葉の意味を調べる上で，辞典というものが非常に便利であるということは実感している。

１学期の説明文教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」では，Q&A 形式のシナリオ作りを経験しており，「シナリオを作るのが楽しかった」「だんだんとやり方が分かってきた」という感想が多く聞かれた。シナリオを作る際に，教材文のどんなところから Q&A となる文や言葉を選べばよいのかということや，そこに隠された気もちの読み取り，また，筆者の表現のよさに目を向け，その表現のよさを使って今の自分を取り巻く環境に置き換えて文章を作るという経験をしてきている。２学期の「ニュース番組を作ろう」では，フリップボードの活用により，聞き手に分かりやすい情報の伝達方法を学び，その活用の有効性も学んでいる。また，「宮沢賢治」の学習では，内容の大まかな把握に，年表作りを経験し，広範囲の教材文から必要な内容を抜き出しまとめる学習もしてきている。

（２）教材観

卒業を意識しはじめるこの時期の６年生は，漠然とであっても自分の将来や生き方について思いを巡らすこともあるだろう。そこで，人の生きる姿を題材に扱う「プロジェクト X」風の番組を作成することで，本教材を意欲的に読み取らせることをねらう。

本教材は，画期的な国語辞典作りに情熱的に取り組んだ親子の姿を描いた文章で，自分の仕事を見付け，それに打ち込んだ人の生き方にふれるということからも意義のあることである。また，「言葉」を対象とする仕事ということから，改めて「言葉」に関する新しい視点を見いだし，その働きや意味を改めて考えていくきっかけともなるだろう。さらに，本教材では，課題とそれに対する努力・解決というパターンをとることで，感動をもって読めるように文章が展開されていて，そうした筆者の巧みな書き方のよさにもふれさせることができる。

（３）指導観

指導にあたっては，「プロジェクト X」という番組を作り上げることで，その特徴上，人の生き方を意識した読み取りが行えることが期待される。その番組のシナリオを作るという過程の中で学習への意欲を高めながら，読み取らせたい内容が自然と考えられているような工夫をしていきたい。そのシナリオの工夫としては

①「「広辞苑」にはいろんな秘密がありそうだ。」と思えるようなクイズを教材の中の数に着目させて作らせる。（数の効果）
②年表を作ることで，全体をつかむ。（文脈から，年数の表示がない出来事へもこだわる）
「「広辞苑」作りで苦労した出来事」を年表と列記することで，課題と解決という繰り返しによる表現の巧みさに着目させる。
③辞書作りの問題となる出来事ベスト 3 を考えることで，筆者の表現の工夫や構成のよさに気付かせたい。（文末表現・接続詞）
④新村さんの人柄が分かる質問を考えることで，新村さんの人柄のよさにふれさせたい。
（人物の生き方にふれる）
⑤番組を印象付けることば選びから，その教材の要旨をとらえさせる。
以上のことを，シナリオ作りの補助作業として取り組む中で，内容の読み取りや筆者の構成のうまさなどに気付かせていきたい。また，学習した内容や表現の工夫等を生かして，補助作業後のシナリオ作りに役立たせるようにしたい。

これらの作業では，まず，読み深める過程として，自力読みによる自己解決を図らせたい。自力読みの段階で，読み取りの視点を明らかにし，言葉へのこだわりがもてる手立てとしたい。その手立てとして，シナリオの工夫点にあげた５つの項目が結びつき，教師側の読み取らせたい内容と，子どもたちの言語活動による読みの意欲とがつながることを意図したい。また，話し合う過程では，自分と他者との読みの違いに気付かせ，考えを広げるとともに，自分の考えと比べることで，自分の読みをより深めることを意図したい。深めることは，読み取りの視点から考えられた自分の考えの根拠となる言葉に着目させ，他者の根拠となった言葉と比べて考えることで，より自分の考えをはっきりさせたり，他者の考えのよさに気付いたりすることと考える。

３　単元の目標

・ 番組のシナリオやフリップボード作成を通して，文章の構成に注意して読み，書かれている内容を正しく読み取ることができるようにする。
・ シナリオ作成を通して読み取ったことをもとに話し合い，筆者の意図や表現の工夫に気付くことができるようにする。

４　単元も評価規準

国語への関心・意欲・　態度	ア　進んでフリップボードの言葉や質問の言葉を考えることで，番組を楽しく作ろうとしている。
読む能力	イ　筆者の意図や表現の工夫に気付き，書かれている内容を正しく読み取っている。 【「Ｃ読むこと」②内容（１）イ】
言語についての知識・理解・技能	ウ　「広辞苑」作りの大変さを効果的に表している，文章の構成を理解している。 【「言語事項」（１）オ　文及び文章の構成に関する事項（ア）】

5　単元計画（本時５／１０）

時	主な学習活動	教師の指導・支援	評価とその方法
1	○教材文を通読し，学習の見通しをもつ。 ○教材文の中の数字に着目し，「広辞苑」に関するクイズをつくる。	○１学期の対談作りを想起させ，番組「プロジェクトＸ６０３」作りの見通しをもたせる。 ○「広辞苑」の秘密が知りたくなるような数字の吟味をさせることで，クイズに意図をもたせる。	イ　意図した「広辞苑」に関する数字を選び，その数字の有効性を知ることで，内容を読みとることができる。 （ワーク・発言）
2	○教材文全体から，年表を作ることで，全体を大まかにつかむ。	○年数が表記されている出来事を中心に年表を作りながら，その間の出来事についてもできるだけ記入させる。	イ　年表を完成させることで，「広辞苑」ができるまでの大まかな流れをつかむことができる。 （ワーク・発言）
3	○「広辞苑」作りで困った出来事を，年表に並べながら書き出し，文章構成の工夫について考える。	○年表と並べることで，出来事の浮き沈みを心情曲線から視覚的にとらえさせ，文章の構成の工夫に気付かせたい。	イ　困った出来事を正しく読み取ることができる。（ワーク） ウ　筆者の文章構成の工夫に気付く。 （ワーク・発言）
4	○見出し語を見直すきっかけとなった出来事を書き出し，問題点の大きさを比べる視点について考える。	○問題の大きさを比べる視点には，その出来事の印象に合わせて，筆者の表現の工夫があることに気付かせたい。	イ　問題点の大きさを比べるための視点について考え，その視点に沿って比べることができる。 （ワーク）
5 本時	○辞書作りの問題となる出来事ベスト3について意見を出し合い，決定する。	○辞書作りの問題となる出来事の大きさをいろいろな視点で比べ，出し合うことで，総合的に判断させたい。	イ　辞書作りの問題点の大きさを比べることで，筆者の表現の工夫に気付くことができる。 （ワーク・発言）
6	○新村さんの人柄が分かる質問を考える。	○新村さんの人柄が引き出せる質問を考えさせるようにする。	イ　新村さんの人柄が分かる表現を見付け，シナリオに生かすことができる。 （ワーク・発言）

7	○番組最後のインパクトのある言葉を考える。	○新村親子にとっての「広辞苑」とは，どんなものなのかについて考えさせることで，二人の生き方について，番組最後の言葉として短い言葉でまとめさせたい。	イ　新村親子の生き方について短い言葉でまとめることができる。 （ワーク・発言）
8	○それぞれの場面についてｸﾞﾙｰﾌﾟで分担し，番組のシナリオを完成させる。	○学習してきたことを振り返らせながら，シナリオを完成させる。	ア　担当の場面のシナリオを書き込むことができる。 （ワーク・観察）
9	○発表の練習をする。	○シナリオをもとに，フリップボード等を使いながら伝わりやすさを意識させ練習を行わせる。	ア　伝わりやすさを意識して積極的に練習することができる。 （観察）
10	○ｸﾞﾙｰﾌﾟごとに発表し，録画する。 ○学習の感想を書く。	○　カメラを使うことで, 番組作成という意識付けをする。	ア　番組作成上の自分の役割を積極的に行う。 （観察）

○　指導目標

・辞書作りを再開した後の問題点の大きさを比べた話し合いを通して，筆者の表現の工夫を読み取ることができるようにする。

展開

	学習活動	教師の働きかけと評価
つかむ	1　前時の学習を想起する。 2　学習のめあてを確かめる。	○比べる視点について確認し，その視点に沿って理由を考えたことを想起させる。
	広辞苑作りで問題となった出来事のベスト３を話し合おう。	
読み深める		○視点の接続語や文末表現が，シナリオ作りに役立っていくということで目的意識をもたせて，問題となる出来事ベスト 3 の話し合いの見通しをもたせる。
	3　自分の意見をまとめる。	○ワークシートを振り返り，できるだけ自分の言葉で，意見が言えるように考えをまとめさせる。（ワークシートを見ずとも，発表ができるようにしたい）
話し合う	4　一番大変と感じる出来事について話し合う。 ＜予想される意見＞ **現代かなづかいが定められたこと** ・見出し語の書き直しの大変さ ・最初から配列を書き直すことの大変さ **新しい言葉の誕生** ・新たに２万語を加える ・見出し語が増える ・書き留め検討することの大変さ ・「つりかわ」の説明 **ものの名前や内容の変化** ・二十万語の見直し ・終わったと思った後の追いうち **基礎後の書き直し** ・単純かもしれないが ・説明の難しさ	○一番大変だと考える出来事について意見を出し合い，検討する材料とする。 ○出された意見から，再度，自分の意見と比較し，問題の大きさを比べるように促す。 ○出された意見が，教材文のどの部分から分かるのか，振り返ることで，言葉にこだわる読みをさせたい。 **・「つりかわ」の説明の大変さ** →簡単そうに見えて決してたやすいことではなかった。 **・終わったと思った後の追いうち** →言葉を集め，見出し語として立てて原こうを作ってしまえば安心かといえば，そんなことはなかった。 　これでようやく自分たちの仕事は終わったのだと思った。しかし，実は終わっていなかった。 **・単純かもしれないが大変** →ていねいで行きとどいた説明が求められる。 　たんねんに行ったりしなければならない。 　まだ，十分ではなかったのである。 ○出来事の中で，問題の大きさに偏りがあるものについて検討し，そう感じない出来事については消去することで，検討する出来事が絞られるようにしたい。

		○検討する出来事については，具体的にどのようなところが大変なのか，実際に体験することで，比較する材料としたい。 ・新しい言葉の書き留めと，検討（のせるかのせないかの判断） ・「つりかわ」の説明 ・基礎語の書き直し（例「こと」） 出された意見から教材文の言葉に振り返ったり，具体的操作をしたりすることで，一番問題の大きい出来事を選ぶことができる。
ふりかえる	5　問題の大きい出来事を検討しなおす。	○これまでの話し合いをもとに，再度，問題の大きい出来事について検討し，ワークシートに記入させる。理由の付け加えもさせることで，どこにこだわったかを意識させる。
	6　次時の活動について確かめる。	○新村さんへの質問作りをすることを確かめる。